

平成 27 年度
大刀洗町住民協議会 答申
「子育て支援について」

2016 年 2 月 28 日

大刀洗町住民協議会

大刀洗町長 安丸国勝 様

昨年度から始まり今年度で2年目になる住民協議会は、「子育て支援」というテーマについて、昨年8月から11月までの4ヶ月間で4回の議論を行ってきた。

今年度のテーマである「子育て支援」は、これまでのテーマ（「ゴミ行政」、「地域包括ケア」、「地域自治団体と行政の役割」）に比べて、出産から未就学前、小中学校に至るまで議論の範囲が幅広く、担当課職員の方々は大変であったと思う。それぞれの分科会における議論の中心分野が異なったため、全体として多くの課題や解決策を本報告書にまとめることができた。また、今回はテーマの担当課が複数課（子ども課、生涯学習課、健康福祉課）にまたがっていたが、役場の縦割りにとらわれることなく横断的な議論ができたことは、住民目線での課題の抽出や、昨年度以上に全庁的な取り組みになったことにおいて大きな効果があったと考える。

議論の進め方は、「子育て支援」の課題をまず考え、（１）個人としてできること、（２）地域・民間でできること、（３）行政ができることの順に解決策を議論した。

行政に言い放しの要求をするのではなく、自分たちのこととして課題に向き合い、行政と一緒に解決に向けて取り組もうとする環境を作ることができた。今後の住民協議会においてもこの仕組みを継続していただきたい。

「子育て支援」の課題と解決策は、子どもや親たちだけに限られるものだけではなく、高齢者や地域など大刀洗町全体に関わることだということを、今回の議論を通じて気づいた。

住民協議会の目的は（１）町のことを住民が「自分事」として捉えるようにする、（２）課題を解決する、の2点であった。

住民協議会に参加したことで、学校に関わることの重要性を認識してPTA会長になった人や小学校との接点が全くないけれど、自分の地域の小学校と関わりを持ちたいと考えて初めて見学に行った60代の男性など、既に（１）の目的は達成されたとも感じる。

残りの（２）の目的を達成するため、引き続き町長がリーダーシップを発揮し、大刀洗町役場が一丸となって取り組んでいただきたい。

平成28年2月28日

大刀洗町住民協議会

第1分科会 分会長 松川 寛

第2分科会 分会長 牟田 浩二

第3分科会 分会長 平田 秀一

1. 住民協議会概要

昨年度に引き続き、平成 27 年度「住民協議会」を実施した。
委員、テーマ及び各回の議論は以下の通りである。

○ 委員

無作為に抽出し協議会委員の案内を送付した数	589 件
応募した委員（応募率）	48 人（8.1%）
各分科会の委員の数 （抽出とは別に高校生 9 人含む）	
・ 第 1 分科会	19 人
・ 第 2 分科会	19 人
・ 第 3 分科会	18 人
	計 56 人

○ テーマ及び各回の議論

テーマ：「子育て支援について」

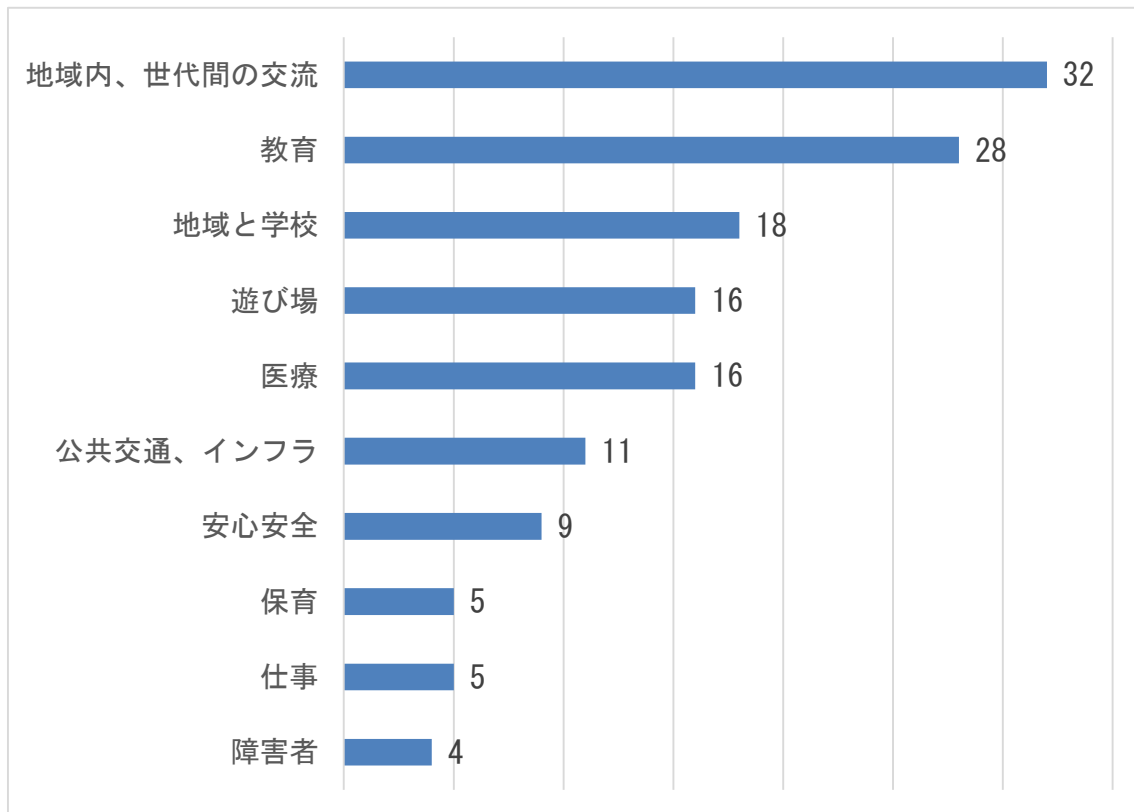
各回の議論

- ・ 第 1 回会議：平成 27 年 8 月 29 日（土）
テーマに関する説明（子ども課）、各分科会にて議論
- ・ 第 2 回会議：平成 27 年 10 月 18 日（土）
各分科会にて議論、「改善提案シート」の記入
ナビゲーターの参加
- ・ 第 3 回会議：平成 27 年 11 月 1 日（日）
各分科会にて議論、「改善提案シート」の記入
ナビゲーターの参加
- ・ 第 4 回会議：平成 27 年 11 月 28 日（土）
「改善提案シートの中間とりまとめ」について各分科会にて議論、
「意見提出シート」の記入

2. 各委員の考える「課題」の概要

第2、3回会議で各委員が「改善提案シート」を用いて、「子育て支援」に関する現状の課題は56人の委員から144項目挙げられた。

それらを大まかに分類すると以下のようになった。



大きくは10項目、具体的な課題は18項目に分類された。

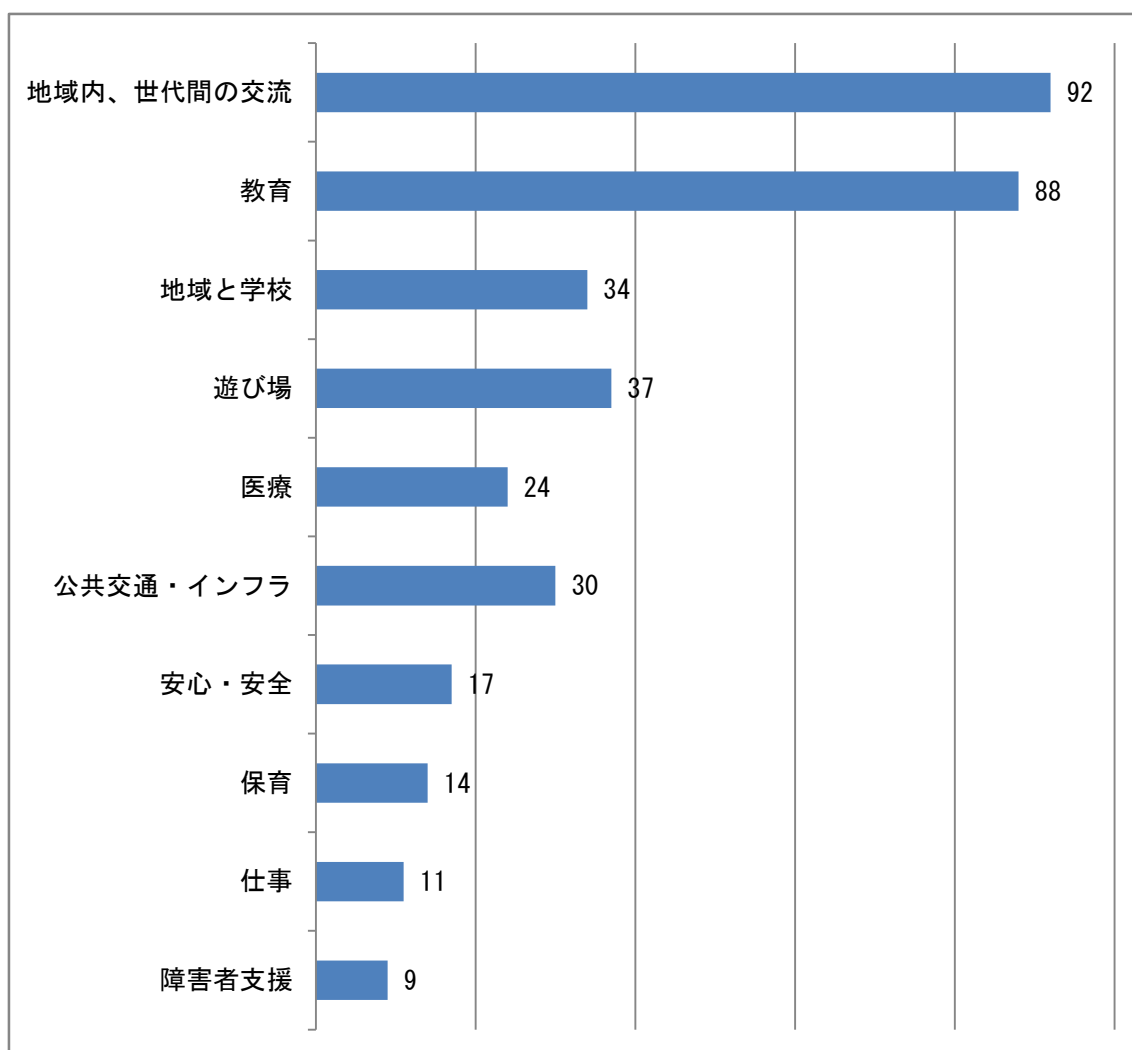
「大人と子どものコミュニケーションが希薄」「地域で大人と子どもが関わる場、活動が少ない」など地域内において大人と子どもの交流が少ないという課題が最も多く、次いで「学力」や「いじめ」などの教育に関する課題が多く挙げられた。

また、医療、公共交通、安心安全、仕事、障害者など、課題が多くの分野にわたって出されたことも特徴である。

その後、第4回会議で各課題についてさらに詰めた議論を行い、議論を踏まえて各委員が「意見提出シート」を記載した。

「意見提出シート」を加えた各委員の意見内容を分類すると、以下のようになった。

「現状の課題」性質別とりまとめ（第4回協議会終了時点）



突出して「地域内、世代間の交流」および「教育」についての意見が多く出された。

具体的な内容は次項の通りだが、実現可能性の高い提案も多くある。住民協議会の各委員が行動し、また周囲にも働きかけて実現を目指しつつ、行政としてできることについても積極的に進めていただきたい。

3. 委員からの改善提案概要

(1) 地域内、世代間の交流

課 題		大人と子どものコミュニケーションが希薄。
改善 提案	個人の取り組み	・ 地域の中であいさつをする、コミュニケーションをとる。 ・ 子どもと保護者が話すように声をかける、あいさつが第一歩。 ・ 子どもから大刀洗町の大人がどう見えるかを聞く ・ 子どもたちと会話し、子どものことを理解する ・ 大人が子どもにアドバイスや話をする場を設ける ・ 大人たちが子どもに関心を持ち、子どものことについて話す。 ・ 大人の自己満足で終わっていないか、という視点を持つ。 ・ “見守り隊”の活動の中で、あいさつだけではなく、出来事や家族のことなど、少しでも会話を楽しむ。 ・ 保育園や学校の行事に積極的に参加する。 ・ まずは家庭内のコミュニケーションを深める。
	地域・民間の 取り組み	・ 周りに広がるように、大きな声で声掛けを行う。 ・ 子どもにもあいさつすることを地域でも常に教える。 ・ PTCA（PTAに地域住民が加わった「親（Parent）と教師（Teacher）と地域住民（Community）の会」）のようなものがあれば、地域の中で子どもと大人のつながりの場を設けられる。 ・ お年寄りと子どもが交流できるイベント（ミニデイなど）を行う。 ・ まずは隣組単位であいさつ運動を行ったり、近所の子どもを自分の子どものようにかわいがったりすることで、地域の知らない人を減らす。 ・ 見守り隊の役割を交差点の旗持ちだけでなく、家の近所での見守りや登校時に付き添い会話することなどにも広げる。

	行政の取り組み	・ 地域で知らない人がいなくなるくらい交流を広げるための環境づくりを行政が先導する。 ・ 大人が子どもとコミュニケーションをとる大切さを伝える。 ・ 校区センターとの協力やドリーム祭りなどで、交流の場作りを行う。 ・ 気軽に様々な年齢層が集まり、コミュニケーションをとれる場をつくる。 ・ 行政が現状を把握し、地域、個人の活動のバックアップをする。 ・ 子どものいない家庭、子育てが終わった家庭にも学校行事の情報を伝える。
--	---------	--

課 題		地域で大人と子どもの関わる場、活動が少ない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 自分の子以外の子どもたちにも関心を持ち、子どもたちが心を開くことのできる接し方をする。 ・ 子どもの行事に、同じ目線で自ら関わる。 ・ 美化活動に参加し、会話する。 ・ 大人はウォーキング時、子どもは通学時などにゴミを拾い、ともに町をきれいにする。 ・ ボランティアバンク、保育士バンクなどのネットワークに参加する。 ・ 高齢者と子どもが触れ合える場ができるよう積極的に声を出してみる。 ・ できること、やりたいことから始める。 ・ 自宅を開放して子どもを集める。 ・ 町の広報紙を見て、校区単位で実施している「もちつき」や「ふれ合いウォーキング」などの行事に参加し、また地域の人に広めていくことを心がける。(地域の行事は知らない人が多い。)
	地域・民間の 取り組み	・ 大人と子どもが集まる場や行事をつくる。 ・ 学校や家庭以外でも気軽に話せる場、悩みを吐く場所を作り、その子の個性を活かせる環境を整える。 ・ 美化活動に子どもも参加するよう声をかける。 ・ ボランティアバンク、保育士バンクなどのネットワークの参加者を呼びかける。

		・ 子育てに限らず、高齢者支援などと一緒にネットワークを作る。 ・ ボランティアに入っていなくても、学校の OB としてなど若者との関わりを持つ。 ・ 子どもが地域の人から食育について教えてもらう機会をつくる。 ・ 季節ごとの行事や活動を地域から増やすとともに、既にある行事（もちつき、どんど焼きなど）も拡大する。 ・ 回覧板などで地域の行事を住民に知らせる。 ・ 小学校で実施しているもちつき大会を地域で実施する。 ・ 年代別のソフトボールやハンドボールの大会を一堂に会する場で行う。
	行政の取り組み	・ 美化活動に子どもも参加するよう行政区に依頼。 ・ 美化活動のための無料のゴミ袋、集積所を提供する ・ ボランティアバンク、保育士バンクなど、子育てに限らず高齢者支援などと一緒に、家庭、学校、地域、行政間のネットワークづくりを行う。 ・ 年寄り子どもが触れ合えるようなアイデア募集のための目安箱を設置する。 ・ 学校の OB 組織を作り、参加を呼びかける。 ・ 大人子どもが一緒に行えるイベントを、大人子どもが企画して行う。 ・ 地域の声を聞き、地域の力を求めるような情報発信をする。 ・ ドリーム祭りのようなイベントを季節ごとに開催。 ・ 小学校のもちつき大会などを地域の活動に対する経済面での支援。 ・ HP や広報紙での広報。
	その他	・ 場所や活動を増やす前に忙しい子どもたちが参加できるかを考える。

課 題		大刀洗町や地域の取り組みの関心、情報がない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 町の広報紙や役場の掲示板を読む。 ・ 町の取り組みやどのような組織・制度があるのか、

		自ら知ろうとする。 ・ 地域の取り組みに参加し、大刀洗町の良さを話し、共有する。 ・ 大刀洗町の良いところを行政に伝える。 ・ 町の歴史や特色などを調べる。 ・ 退職してできた時間を使い、大刀洗町内を自分の足で歩く。 ・ 住民協議会が行われていることを近所に伝える。 ・ 行政区長、隣組長に地域のことを尋ねる。
	地域・民間の取り組み	・ 従来通りの周知や、限られた人への協力依頼だけでなく、その地に住む住民へ届ける思いで広報活動する。 ・ 地域の取り組みに参加するときは、周囲に呼び掛けを行うような雰囲気をつくる。 ・ 地域で情報を集め、特産品やお店のアピールなど大刀洗町の良さを、HP やブログ、SNS を活用して発信する。 ・ 回覧板を活用し、全世帯に情報を配布する。
	行政の取り組み	・ 情報が得られる場、イベントを実施する。 ・ 回覧や広報だけに頼らず、HP や Facebook など協力者依頼をしてはどうか。 ・ ボランティア連盟に所属している団体への協力依頼（行政内部での連携を強化して欲しい）。 ・ 子どもの遠足に地域住民が参加できるようにする。 ・ 既存の仕組みの存在意義を再確認し、町内外に周知するためのツールを増やす。 ・ 各地域のキーパーソンに、大刀洗町の取り組みへの人集めをしてもらう（書面より肉声で）。 ・ 道の駅大刀洗をつくることの検討。 ・ 子育て支援事業などの町の取り組みや住民協議会での議論を学校や保育園の参観日に紹介する。 ・ 行事の告知は広報紙以外にも、防災放送を活用する。 ・ 町の強みを、SNS などを活用してもっと発信していく。 ・ 子どもがいない家庭への学校行事などの情報発信。

(2) 教育

課 題		中学生の学力が低い。
改善 提案	個人の取り組み	・ 周りに流されず、自分が将来の事を考え、個人個人で高い目標を立てる。 ・ 塾に通わせる。 ・ 子どもにチャレンジ精神を持たせる。 ・ 大人が関心を持ち、一緒になって考えていく。 ・ 自学自習の習慣、“勉強の仕方”を身につける。 ・ スマホの使用を減らす。 ・ 勉強しやすい環境をつくる。 ・ 子どもと一緒に勉強する。 ・ 子どもとコミュニケーションをとり、勉強への意欲を持たせる。
	地域・民間の 取り組み	・ 学習意欲を持たせる地域での取り組み。 ・ 4校の学力オリンピックを実施し、小学校時より学力向上に目を向けさせる。 ・ 放課後に子どもに勉強を教える場をつくる。 ・ 中学校が1つしかないので、大刀洗町全体で盛り上げていく。 ・ 勉強しないといけない雰囲気・勉強できる環境を大人と子どもでつくる。 ・ 塾を作る。 ・ クラスごとに平均点を出して、競争力を高める。 ・ コミュニケーションの場を地域で提供し、将来のために何の勉強をすべきかアドバイスする。
	行政の取り組み	・ 学力が低いことの原因分析。 ・ 町の学力の実態を調査・分析し、住民に対し分かりやすく公表する。 ・ 切磋琢磨できるような環境を作る。 ・ 学力・学習調査を軽視している風潮を改善。 ・ 学校での授業と違った指導や授業方法を体験させる機会と場を設ける。 ・ 学習規律の徹底。 ・ 町としての学力の到達目標を明確にする。 ・ 土曜日学習の時間をつくる。

		・ 教科ごとに自分のランクを知らせる。 ・ 学力だけを見るのではなく、学習に対する姿勢も見えて、意欲的に取り組めるよう指導する。 ・ 勉強しようという雰囲気づくりのために、クラスごとの学力競争を促す。 ・ 夢に向かった勉強の大事さを伝える。 ・ 高校生などの卒業生が中学生のために情報や経験などを伝える機会をつくる。
	その他	・ 勉強が全てではないが、できることに越したことはない。

課 題		小・中学生の思いやりの心が欠けている(いじめ)。
改善 提案	個人の取り組み	・ 学校の授業にボランティア参加（絵本の読み語りのボランティア実施など）。 ・ 体験をふまえて、自分で生きていける人格の応援をする。 ・ 一人ひとりが周りに親切にする。 ・ 子どもにあいさつなど、積極的に声をかける。 ・ 多くの子どもと接して、子どもの心を和らげる。 ・ 相手の子の気持ちを自分で考える力を身につける。 ・ 独りでいる子に積極的に話しかける。 ・ 大人の身なり、行動、態度を見直し、子どもたちに誇れる大人になる。 ・ 友人との付き合いを大切にする。 ・ 学校での出来事、子どもが遊びに行った時の出来事の話聞く。 ・ いじめられている子に、学校教室だけが居場所ではないことを伝える。
	地域・民間の 取り組み	・ 上級生が下級生に世話をするような機会をつくる ・ 多くの人が子どもたちに気を配る目線と支援。 ・ コミュニケーションの場を地域で提供する。 ・ いろいろな経験をさせ、それを見守り、注意したり、諭したりするような体制づくり。 ・ 心のケアができる環境を作る。 ・ カウンセラーやボランティアが話を聞いてアドバ

		イスする。 ・ 困難な子どものための居場所づくり。 ・ 大人と生徒で、一緒にいじめの問題について考える
	行政の取り組み	・ 子どもが理解できるような映画鑑賞会の実施。 ・ いじめ対策に関する様々な情報の収集。 ・ 心身ともに健康な体を作るためにも、食のバランスを整える食育情報を提供する。 ・ 悩み相談を充実させる。 ・ 思いやりや気配りを学ぶことのできる道德教育を積極的に行う。 ・ 学校のみならず、図書館などの施設に子どもの居場所をつくる。 ・ 先生と保護者も含めて、監視の目を強化し、いじめの早期発見に努める。

課 題		保護者の学校行事への参加が少ない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 保護者同士や地域の知り合いに声をかけ、一緒に学校行事に参加する。 ・ 親子間でコミュニケーションを取り、一日の出来事などを話す。 ・ 子どもから親に参加を呼びかける。
	地域・民間の取り組み	・ 学校行事に関心を持ち参加する。 ・ 連絡網などを活用して学校行事への参加を呼びかける。 ・ 子どもの数は減っているのに PTA 役員の数はそのままなので、同じ人が何回も役員をしなければならない現状を変える。 ・ 学校でどのような事が行われているのか、PTA の広報担当が HP 更新、プリントの配布を行う。 ・ 保護者が参加しやすい場作り。
	行政の取り組み	・ 広報紙などで学校行事への参加を呼びかける。

課 題		学校の HP が活用されていない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 普段から HP を見て、情報収集する。
	地域・民間の取り組み	・ HP を周知する。 ・ 高学年の子どもでクラブをつくり、放課後や昼休み

		などに更新してもらう。
	行政の取り組み	・ HP の更新作業を校長室で行えるようにして、誇りをもって活動できるようにする。 ・ HP にコメントを投稿できるシステムを作り、活気づける。

課 題		学校内で喫煙する教師がいる。
改善 提案	個人の取り組み	・ 親として先生と禁煙について協議する。 ・ 学校が喫煙にふさわしい場所かを考える。 ・ 注意し、喫煙させない。 ・ 自覚して自重する。
	地域・民間の 取り組み	・ PTA で禁煙を決議して、提案する。 ・ 子供が近づけない場所に喫煙所をつくる。
	行政の取り組み	・ 生徒から見えない場所に喫煙所を設置する。 ・ 学校長と禁煙について協議する。 ・ 条例などを制定する（禁煙・分煙）。 ・ 禁煙・分煙のルール作りとその徹底。 ・ 公共の機関での喫煙場所の整備。

<u><その他意見></u> ● 小学校と中学校の交流が少ないのもっと交流の機会を増やす。 ● 学校の遊具が常時使用禁止になっているが、地域で得意な方がボランティアで修理できるのではないかな。	
---	--

（３）地域と学校

課 題		地域と学校の接点が少ない。
改善 提案	個人の取り組み	・ スクールコミュニティに参加し子どもと触れ合う。 ・ ボランティアとしてスクールコミュニティに参加する。 ・ まずは草取りから協力者を募ってはじめる。 ・ 地域の行事に積極的に出ていく。 ・ 自分から関わりを持とうとする。 ・ 子どもの目線で、出来るだけ子どもに話しかけて

		みる。 ・ 広報紙をよく読む。 ・ 登下校時にあいさつをする。 ・ 自分が今持っているコネクションを利用して交流の場を様々なところに働きかける。 ・ 自分の子どもの頃の話などを伝える。 ・ 学校へ来た来校者にあいさつする。 ・ 学校行事を近所の人に伝える。
	地域・民間の取り組み	・ 地域の子どもは地域で守るという意識づけをする。 ・ 学校をコミュニティの拠点とする。 ・ 小学生や中学生が大人と関わる場をつくる。 ・ 学校に親と子どもが一体になれる環境をつくる。 ・ スクールコミュニティを色々な地域・民間で協力しながら取り組む（自然体験するイベントなどを考え、地域の人が運営する、など）。 ・ 簡単にできる大人と子どものふれあい企画を考える。 ・ 登下校時のあいさつを積極的にする。 ・ スクールコミュニティを、子どもが放課後に自由に遊べる場所にする。 ・ スクールコミュニティのボランティアが楽しんで参加できる体制を考える。 ・ 地域の美化活動を学校も一緒に行う。 ・ 集団登校に地域の人が参加しコミュニケーションをとり、安心安全につなげる。 ・ PTCA で大人と子供の交流の場を設ける。 ・ 通学合宿などを通して、大人と子どもの交流をはかり、地域の活性化につなげる。 ・ 各校区の人と一緒に遊べる授業などを取り入れる。 ・ 行きやすい環境と話題作り。 ・ 関わる機会が少ないわけではないので、今ある活動を活かす。 ・ PTA の OB 会を設け、学校との関り合いを深める。
	行政の取り組み	・ 地域住民が学校を利用しやすくする。 ・ コミュニティセンターと学校を一緒にする（行政から学校に働きかける）。

		・ スクールコミュニティの行事などの PR、呼びかけの支援。 ・ 中学生対象の参加しやすい、したくなるイベントを開催する。 ・ 各校共有のボランティアの会（地域住民の会）のシステムをつくる。 ・ アンビシャス広場やチャレンジ教室について、もっと多くの人が協力する。 ・ 通学合宿を地域任せにするのではなく、地域の人はどう関わっているのかを行政も見学に来て確認する。 ・ 子どもがいる家庭だけでなく、その他の家庭にも学校行事などの情報をお知らせする。 ・ 集団登校を継続する。
--	--	---

（４）遊び場

課 題		子どもの遊べる場所が少ない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 孫と公園で一緒に遊ぶ。 ・ 遊び場所を把握して子どもに伝える。 ・ 時間外学校運動場と校舎や公民館の運営にボランティアとして参加する。 ・ 趣味を活かし、子どもに遊びを教え、ふれあう。 ・ 事故時責任の問題をクリアし、私有地を開放する。 ・ 田植え前の田んぼを開放する。 ・ 子どもに遊びの提案をしていく。
	地域・民間の 取り組み	・ 時間外の学校運動場と校舎や公民館を、地域が主体的に運営する。 ・ 子どもからお年寄りまで参加できるサークルやクラブを地域につくる。 ・ 公園や空き地、神社などを記載した公園・遊び場 MAP を作る。
	行政の取り組み	・ どこに、どんな遊び場があるか周知する。 ・ 行事などの周知をする。 ・ スポーツ施設を有効活用する。

		・ 学校での規制を緩和し、学校や校庭を開放する（体育館に防犯カメラを設置するなど、安全性を確保する）。 ・ 学校の禁止事項が多く、子どもが自由に遊べていないので、ある程度子どもの自由にさせる。 ・ 公園遊具の充実、安全性を確保する。 ・ 行政区ごとに子どもが遊べる公園設置を検討する。
	その他	・ 大人のものさしで子どもの危険を未然に防ぎすぎているのかもしれない。

課 題		大刀洗の自然環境を活かした遊びができていない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 自然の中でウォーキングする。 ・ 自宅の畑のさつまいも掘りを自由に近所の子どもにさせる。 ・ 子どもの遊びを見守る。 ・ 大人が子どもと触れ合いながら自然での遊びを教える。 ・ 大刀洗町の良さを探し、子どもに教える。
	地域・民間の取り組み	・ 虫とりなどが好きな大人が子どもにアドバイスする。 ・ 田んぼを利用して、どろんこになってスポーツ大会をする。 ・ 自然体験するイベントを考え、地域の人が運営する ・ イベント、キャンプ、ウォーキングなどができる場をつくる。 ・ 場所の提供、安全の確保。 ・ 地域の子供と積極的に関わり、自分たちが昔どうやって遊んでいたかを伝える。
	行政の取り組み	・ ヘリコプターに乗せて、大刀洗町を上空から見せる。 ・ 自然環境を活かした町おこし活動を行う。 ・ 大人の事情で禁止されている学校側の決まり事が増えているので、少し緩和すれば良いことが出てくるかもしれない。

		・ 農家に協力を依頼して、稲刈り後の田んぼを無料で提供してもらい、遊び場とする。 ・ テーマパーク化など、自由な発想でいろんな遊びのアイデアを考える。
	その他	・ 行政が行うことは特にない。

(5) 医療

課 題		医療面から、さらなる子育ての支援が必要。
改善 提案	個人の取り組み	・ 健康に留意し、医療費がかからないように食生活などの生活習慣をしっかりと見直す。 ・ コンビニ弁当に頼らず、地域の新鮮なものを取り入れ、自炊する。 ・ 医療費についてどのような補助があるのかをリサーチする。 ・ 手洗い、うがいなど健康管理を徹底し、予防する ・ 大刀洗町の既存の病院を活用できるよう、情報を得る。 ・ 運動や睡眠の時間をしっかり確保し、健康に気をつける。
	地域・民間の取り組み	・ お互いの体調、顔色の変化を感じられる関係づくりを進める。 ・ 地域の医療の情報を共有する。 ・ 流行している病気の情報を交換する。 ・ 食育を行う。 ・ 自然環境を守る。
	行政の取り組み	・ 中学生までの医療費の軽減や予防接種の助成。 ・ 何かあった時に行政の支援があることをわかるようにして、安心してもらう。 ・ 医者、開業医を目指す人たちが大刀洗に来やすい仕組みを作る。 ・ 医療機関マップを作成し、住民に配布。 ・ 急に病院に連れて行く時などに、兄弟を預けるようにする一時預かり所を設ける(シルバー人材センターなどを活用)。

		・ 全国的な水準と比較し大刀洗町の状況を分析、今後の方向性を検討する。 ・ 大刀洗町に人が集まれば病院が増えるので、人が集まるような魅力的な町にする。 ・ 健康診断の結果の分析と活用。 ・ 土日診療、電話相談の充実。 ・ 医師の確保が必要になるが、既存病院の診療時間を延長する。 ・ 食育の情報提供。 ・ 各家庭で行う健康づくりのサポートをする。 ・ ごみ処理を広域で連携しているように、医療も隣接の自治体との協力し、スケールメリットを発揮する。
--	--	--

(6) 公共交通、インフラ

課 題		交通・移動が不便。
改善 提案	個人の取り組み	・ ボランティア運転手になる。 ・ 自転車など自力手段での努力。 ・ 近場に行く時は、極力歩くようにする。 ・ 循環バスやタクシーを利用する。
	地域・民間の 取り組み	・ 通学や、高齢者の生活での必要性をふまえてコミュニティバスの活用を考える。 ・ 新たな雇用先として、コンパクトなバス、普通車、タクシーのような低価格で毎日利用できる交通機関を設立する。 ・ 近場に行く時は、極力歩くように地域で PR する ・ 近隣の人と乗り合う仕組み（思いやりタクシー）をつくる。
	行政の取り組み	・ コミュニティバスを準備する。 ・ 高校生の通学に少し目を向ける。 ・ コミュニティバスの実証実験結果の分析、公表。 ・ タクシー会社などに町内や高齢者限定で値下げなどの協力要求をする。 ・ 年代別に公共交通の必要性は違うので、どの年代に

		どういった必要性があるのかをしっかりと把握し、対策する。 ・ 朝夕は通勤・通学向け、昼間は高齢者向けの病院行きのバスを運行させる。 ・ 鉄道の整備の検討。 ・ 町内で利用できる（バスは費用がかかるので）車を用意。 ・ 住民にコミュニティバスの利用方法（バス停、時間帯など）を周知する。
--	--	--

課 題		道路整備が行き届いていない、危険な箇所がある。
改善提案	個人の取り組み	・ 運転時に気をつける。 ・ 子どもに通学ルールを教える。 ・ 子どもにできるだけ声がけする。
	地域・民間の取り組み	・ データを集めて、住民の要望として危険箇所の整備を県にお願いする。 ・ 要望を積極的に行政側に伝える。 ・ 危険な場所をしっかりと知る。
	行政の取り組み	・ 県への交渉の状況を住民に伝える。 ・ 田んぼの街灯をつける。 ・ 通学路の表示を設置する。 ・ 子ども 110 番を増やす。 ・ HP など危険な場所を載せる。 ・ 危険箇所の改善をする。

（7）安心・安全

課 題		子どもの安心・安全に地域が関わっていない。
改善提案	個人の取り組み	・ 登下校時以外にも腕章をつけ、子どもを見守る。 ・ 腕章を毎日つける。 ・ 「腕章をつけて歩くだけ」という取り組みは大賛成。 ・ 何かのついでに腕章をつけて、小中学生を見たらあいさつする。 ・ 近所の子どもと顔なじみになり、声を掛け合う。

		・ 日に一回、自宅の前に立ち、子どもと触れ合う機会をつくる。
	地域・民間の取り組み	・ 区長やリーダーが声をかけていくなどして、今まで参加していない地域の人にも見守り隊や指導員にもっと関わってもらおう。 ・ お年寄りも腕章つけるだけであれば気軽に参加できる。
	行政の取り組み	・ 赤い羽根を配るよりも腕章を配ることを優先させる。 ・ 腕章購入費のみ（人件費はかからない。サービス精神のある人に任せる）。 ・ パトロールの実施（時間は決めないほうが良い）。 ・ 一斉あいさつ指導、一斉交通指導などを設け、住民に協力依頼する。 ・ 危険箇所に看板を立てる。

（８）保育

課 題		働く親への支援が不足している。
改善提案	個人の取り組み	・ 親同士が顔見知りとなり助け合える関係をつくる。 ・ 子どもをしっかり育てる。 ・ 親子で一日の日程を決める。 ・ 子育てのボランティアに参加する。 ・ 子育ての終わった妻（専業主婦）に人材シルバーセンターを通して、子ども一時預かり保育をしてもらう。
	地域・民間の取り組み	・ 子育てをしやすい地域づくりをする。 ・ 夏休みだけの学童があれば、協力し、子どもたちと一緒に遊んだりして過ごす。 ・ 地域の高齢者の協力やシルバー人材の活用をする。 ・ 既存の施設で、子どもを地域の人たちが見守る。 ・ 両親が多忙で子どもを駅、病院、保育園に送れない時に、地域の人で代行出来るようにする。
	行政の取り組み	・ ボランティアやファミリーサポートセンターに協

		力してくれる人の周知、募集。 ・ 看護休暇の充実、職場環境の整備、土日保育の充実を事業者に働きかける。 ・ 年齢に関係なく、子供の人数で保育額を決める。 ・ 夏休みだけ預けられる学童を設置する。 ・ 今ある取り組み（シルバー人材・ファミリーサポートセンターなど）の周知と改善。
--	--	--

（９）仕事

課 題		求職者（失業者・ひとり親など）に対する就業サポート体制ができていない。
改善 提案	個人の取り組み	・ 気にかける。 ・ 支援の手伝いをする。 ・ リサーチ力をつけ、自分にあった職を探す。 ・ 就職できずに困っている人に、求人情報を教える。 ・ 道の駅に出せるような、野菜を作る。
	地域・民間の 取り組み	・ 色めがねで見ず、支援していく。 ・ 大刀洗道の駅をつくり、高齢者で運営する。 ・ 野菜を作っている人や農家と協力して道の駅を運営する。
	行政の取り組み	・ 仕事の斡旋と、働ける環境整備。 ・ 町内の求人の情報精度を上げるよう求める。 ・ 労働条件（休暇など）についての協力依頼や、それに対する補助を行う。 ・ 大刀洗道の駅のサポートをする。 ・ どのように求職活動をすれば良いかの周知する。

（１０）障害者

課 題		障害者への理解が不足している、住みやすい環境づくりが必要。
改善 提案	個人の取り組み	・ 障害者の生活を把握すること、認めること、あたりまえになること。

		・ 障害者自身や障害者を持つ親が子育て関係のコミュニティに足を運ぶ。 ・ 未就学の障害児がいる家庭に障害者支援の施設などの情報共有・提供を活発にする。
	地域・民間の取り組み	・ 障害者に対する目線をあたりまえにする（偏見をなくす）。 ・ 回覧板などへ障害者支援の施設などの情報提供。 ・ 家族の負担を軽減できる関わりを地域でもつ。 ・ 知識の向上をはかる機会をつくる。 ・ ユニバーサルデザインを増やす。 ・ 障害者のサポートを率先して行う。
	行政の取り組み	・ 障害者に対する偏見をなくすための教育支援。 ・ 母子手帳配布時などに障害者支援の施設などの情報提供。 ・ 障害者施設、支援に関する情報を積極的に開示し、住民に障害者を身近に感じてもらう努力をする。

（１１） その他意見

- 大刀洗は恵まれていると思った。いかに活かしていけるかを考えたい。
- 大刀洗をスポーツで魅力ある町にしてはどうか。
 - 指導者や先生を養成、招聘する。
- シンガポール派遣は必要か。何をやっていたのか見えてこない。
 - 大刀洗町 HP に内容を載せて欲しい。
- メガネをかけている子どもが多い（視力低下）。
- 産後の子育ての不安がある。
- 大刀洗の良さを隣近所の市町に発信し、空き家を利用して、人口増加を目指す。
- 地球環境を考えて、大刀洗町の街灯全てを LED、センサーライト化する。
- 大刀洗の町のゴミ袋が高い。
- 社会保障制度についての子どもの理解が足りないので、まずは大人が理解を深めるとともに、学校で教える。
- イベントや行事の際、行政は写真を撮るだけではなく、ボランティアを活用しながら問題点や参加者の声、大刀洗町として目指すことなどの整理をする。

- 広報紙をもっと読みたくなるようなものにしてほしい。
- 自分の地域は隣組の付き合いがかなり薄い。
- 世代間での話が盛り上がり、大変楽しい住民協議会だった。自分自身の頭で考えていきたい。
- 住民協議会のメンバーが主体となり町の強みを築いていきたい。
- せっかく委員になったのに欠席する人が多かった。もっと多くの方が参加するよう、行政は考えてもらいたい。
- 大刀洗町は隣接する久留米市、小郡市、朝倉市に比べると商業施設や大企業は少ないが、それらの市にないものがある。当町で生まれ、育った人が子や孫を持った時に誇りを持って連れて来られる町になれば、それで十分ではないかと思います。

4. 最後に

住民協議会への参加によって、町全体のことにに関して、日々の意識や行動に変化が生じた委員は多数いる。また、テーマ担当職員も新たな気づきが多かったと聞く。

昨年度のテーマとあわせると、住民協議会として4つのテーマについてとりまとめを行ったことになる。今後、それらについてのフォローアップ調査を行い、来年度には住民協議会の進捗状況報告会を開催していただきたい。

5. 平成27年度住民協議会参加者

第1分科会

分 会 長 松川 寛
副分会長 平塚 里枝
委 員 徳久 邦博
委 員 井手 弘志
委 員 樋口 まゆみ
委 員 牛島 輝男
委 員 渡邊 厚子
委 員 児島 博敬
委 員 柳瀬 博文
委 員 古賀 そのみ
委 員 北崎 勝繁
委 員 松永 やすえ
委 員 川原 涼子
委 員 宮本 明子
委 員 田中 遼
委 員 山城 友梨
委 員 森田 千帆
委 員 葉玉 涼
委 員 堀江 光瑠

第2分科会

分 会 長 牟田 浩二
副分会長 吉川 眞由
委 員 廣木 俊二
委 員 田原 英明
委 員 安丸 善子
委 員 古賀 一信
委 員 平田 政志
委 員 中嶋 隆富
委 員 近藤 学
委 員 實藤 祐子
委 員 原 英二
委 員 安達 賢
委 員 黒岩 公子
委 員 福本 あゆみ
委 員 棚町 和江
委 員 白石 佳奈絵
委 員 平田 絢香
委 員 平城 春奈
委 員 溝上 真人

第3分科会

分 会 長 平田 秀一
副分会長 原野 恭子
委 員 井上 秀俊
委 員 中島 信治
委 員 安武 洋子
委 員 高木 祐範
委 員 久保田 真仁
委 員 児島 里桂
委 員 安丸 茂子
委 員 大村 博光
委 員 中川 亜美
委 員 棚町 あゆみ
委 員 矢野 さやか
委 員 中原 潤一
委 員 岩野 薫子
委 員 四ヶ所 怜奈
委 員 松元 奈菜香
委 員 無津呂 樹

構想日本

<コーディネーター>

- ・伊藤 伸（構想日本 統括ディレクター）
- ・荒井 英明（神奈川県厚木市 社会教育部長）
- ・山根 晃（東京都足立区教育委員会 子ども家庭課長）

<ナビゲーター>

- ・宮崎稔（学校と地域の融合教育研究会会長、宮城県女川町復興支援専門員）
- ・熊谷哲（PHP 総研 主席研究員）
- ・堀岡伸彦（山梨県福祉保健部参事、医務課長、医師）
- ・福嶋浩彦（中央学院大学教授、元我孫子市長、元消費者庁長官）